studiologic®

made to perform

numaconcert

numastage

共通オペレーションマニュアル

Version 1.1

重要安全事項

高電圧注意！

感電の恐れがあるため、分解は絶対におやめください。本体内部にスペア部品などは一切付属しておりません。修理は当社のサービスセンターまでお申し付けください。

電源について

電源供給は定格のアダプターをご使用ください。

湿気について

感電のリスクを避けるために、本機を雨や湿気の多い場所には設置しないでください。また、液体を含むものを本体の上に置くこともおやめください。プールやバスタブ、湿気の多い地下室などでのご使用もおやめください。

本機を低温の場所から高温の場所へ移動した場合、本体内部に凝結が発生する場合があります。この場合、本体が部屋の気温に十分馴染んでから電源をお入れください。

設置について

サイズ、重量を考慮し、安定性の高いラックをご使用ください。

お掃除／メンテナンスについて

強力な洗剤は絶対に使用しないでください。表面にしみがつく原因となります。軽く水をしみこませたミクロ繊維の布でのお掃除をお奨めいたします。

付属品はマニュアルに従い、メーカーが明記されたもののみをご使用ください。指定された以外のことで、本機に不具合が発生した場合、保証を受けられなくなりますのでご注意ください。

本機の性能を知っていただき使いこなしていただくために、本マニュアルの熟読をお奨めいたします。

安全にご使用いただくために	2	
あなたの新しいNuma Concert / Stage	4	
本マニュアルの機能説明について	5	
コントロール・パネル / コネクション	5	
Numa Concert / Stageをご使用になる前に	6	
プリセット / サウンド	7	デモソング
	7	プリセットの呼び出し
	7	サウンド・エンジン / サウンド・セレクション
	7	EQ / ボリューム
	7	トランスポーズ
	7	ピッチホイール
レイヤー / スプリット	8	レイヤー
	8	スプリットt
	8	スプリット / レイヤー・レベル
	8	スプリット・ポイント
	8	オクターブ・ロウワー / オクターブ・アッパー
	9	ホールド
	9	エクスプレッション
エフェクト	10	エフェクトの選択
	10	スプリット / レイヤーへのエフェクト・アサイン
	10	フリー・ホイール
ベロシティ	11	ベロシティ
	11	固定ベロシティ
	12	Fatar タッチ
グローバル・ファンクション	12	プリセットの保存
	13	ファクトリー・プリセットの復元
	13	パニック
	13	マスター・チューン
	13	システム
MIDI	14	MIDI コネクション
	14	マスター・キーボード機能
	15	サウンド・セレクション
	15	エフェクト・コントロール
	16	調整の記録
	16	マスター・チューン
トラブルシューティング	17	トラブルシューティング
保証	18	

この度はNuma Concert / Stageをお買い上げいただきありがとうございます。
本製品は、Fatar社Studiologic®製の最先端技術を投入したキーボードです。
Numa Concert / Stageは、簡単な操作と、完璧なキーボード・タッチを実現しています。本製品の性能をフルに活用していただくためにも、本マニュアルの熟読をお奨めいたします。

革新的なグランドハンマー・タッチ

本製品には、名高いFatar社の最新技術が惜しみなく投入されています。 その筆頭として、洗練されたハンマー・アクションを採用したキーボードTP-40 WoodとTP-100の採用があげられます。リアルなグランドピアノ・タッチを実現しています。

内蔵音源

丁寧にサンプリングされた12種類の高品質な音色が用意されており、88鍵盤１音１音を5つのマイクを使用し、９レイヤーで収録することで、9つのダイナミックレベル（ピアノ・ピアニッシモからフォルテ・フォルティッシモ）を忠実に表現します。

マスター・キーボード機能

Numa Concert / Stageのマスター・キーボード機能は、他のMIDI機器を制御することを可能にします。次のトラックの音色を選んだり、レベルを調整したりということが、他の機器に触れることなくNuma Concert / Stageから直接行えます。

オーディオ接続

Numa Concert / Stageは、ステレオアウトに加え、２系統のヘッドフォン出力を備えています。これは音楽スクールなどで、隣人に迷惑をかけることなくジャムセッションを行うといった用途に最適でしょう。また、MP3プレイヤーやMIDI音源モジュールをNuma Concert / Stageのオーディオ入力に接続すると、それらの接続された外部オーディオ機器とNuma Concert / Stageの内蔵音源を直接ミックスすることができます。

インタラクティブなNUMA USB <> コンピュータ

USBポートを使ってNuma Concert / Stageとコンピュータを接続すると、MIDIデータ転送をUSBとMIDIアウト並列で行うことができます。またサウンド・ライブラリや、ファームウェアの更新もUSBを介して行われます。

同梱物

Numa Concert / Stage
電源コード
サスティン・ペダル VFP-1
譜面台
オペレーション・マニュアル

本マニュアルの機能説明について

オペレーションボタンにつきましては、全て**太字**にて記述されています。
(例：**オン / オフ**)

２つのボタンを同時に押すと、「&」が表示されます(例：***Split & Bass 2***)。両ボタンを同時に押すか、1つのボタンを押しながら、もう1つのボタンを押すこともできます。

本マニュアルでは、ファンクション・キーを押しながら行う操作については**太字下線**で表示されています。ファンクション・キーを押し続けた状態でもう一方のボタンを押します（例：**ファンクション & トランスポーズ**）。

値は、Numa Concert / Stageのディスプレイに**太字**で表示されます。（**例：P01**）
値を調整するには、ディスプレイ下の**バリュー + / -** ボタンを使用します。1単位ではなく、10単位で値を変えたい場合は、バリュー + / -ボタンを数秒間押し続けてください。

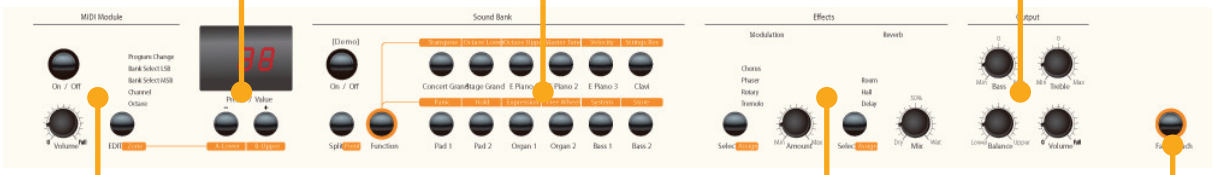
ヒント：より詳しい情報をStudiologicロゴがついたテキストから見つけることができます。

コントロール・パネル

ディスプレイ
バリュー + / - ボタン
値の調整と表示

サウンド・バンク
サウンド、スプリットとシステムコンフィグレーション
7,8 ページ

アウトプット
EQ とボリュームの調整
7,8 ページ



MIDI モジュール
マスター・キーボード・ファンクション
14ページ

エフェクト
モジュレーション / リバーブ・エフェクト
10ページ

Fatar タッチ
オリジナルのベロシティ・カーブを作成可能です。 **12ページ**

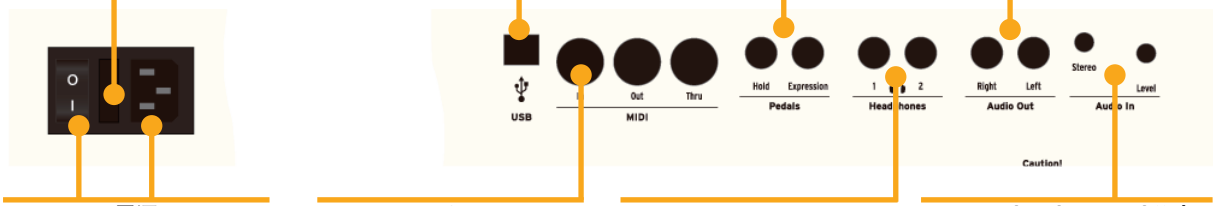
コネクション / 背面パネル

フューズ
1.0A, F, 250V
6ページ

USB ポート
MIDI I / O とソフトウェア・アップデートに使用
13ページ

ホールド
エクスプレッション・ペダル
ペダルを接続するコネクション
9ページ

オーディオ出力 L / R
2x 6,3mm モノ・ジャック
6ページ



電源
100V - 240V
6ページ

MIDI In-Out-Thru
MIDI の送受信に使用します
14ページ

ヘッドフォン出力 1 / 2
2x 6,3mm ステレオ・ジャック
6ページ

ステレオ・オーディオ入力
レベル
3,5mm ステレオ・ジャック
6ページ

電源接続

付属の電源コードを使用し、製品本体の電源ソケットに接続します。電源ソケットのそばにあるスイッチで本体の電源を入れることができます。

譜面台

本体後方の棚受けに付属の譜面台を設置することができます。

サスティーン / エクスプレッション・ペダル

ホールドと書かかれたソケットに付属のVFP 1を接続してください。
エクスプレッションと書かれたソケットには、Studiologic製ペダルVP　27
（オプション）を接続することができます。

注意：他社製ペダルを接続する場合は、17ページの「トラブルシューティング」をご参照ください。

オーディオ出力

オーディオ出力（左 / 右）をお手持ちのミキサー、アンプなどに接続してください。

ヘッドフォン

お手持ちのヘッドフォンをヘッドフォン出力に接続してください。同時に2つまでヘッドフォンをご使用いただけます。

ボリューム

初めて本機をご使用になる場合、***Volume***（ボリューム）・ノブを半分以下に設定してから使用いただき、その後演奏をしながらレベルを調整することをお奨めいたします。***Volume***（ボリューム）・ノブの調整は、全てのオーディオ出力、ヘッドフォン出力に影響します。

警告:
オーディオ機器の破損、故障の原因となる場合があるため、長時間の大音量でのご使用はおやめください。

オーディオ入力

本機ではMP3プレイヤーやMIDI音源モジュールなどの外部オーディオ機器を接続することができます。本体背面のジャック付近にある***Level***（レベル）ノブで入力レベルを調整することができます。

USB

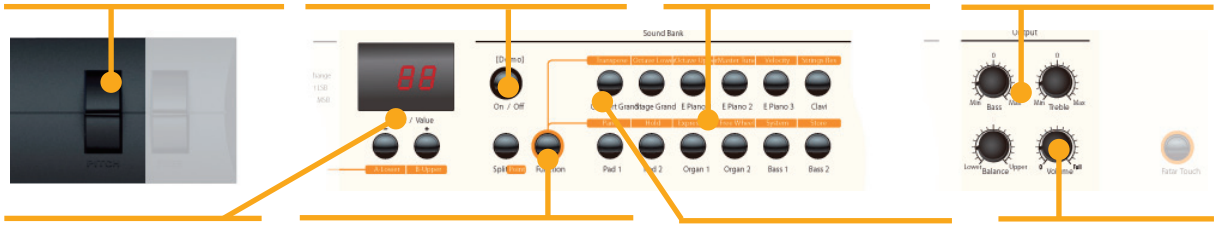
USBを介してのデータ転送は、本体とコンピュータをUSBケーブルで接続します。初めて本機の電源を入れると、コンピュータ側で自動的に認識され、OSによって適切なドライバーがインストールされます。（インストールされたOSのバージョンにより、この限りではない場合がございます）

ピッチ
・±2 セミトーンのピッチベンドを行います

オン / オフ - デモ
・サウンド・エンジンのオン / オフ
・デモソングの再生

サウンド・バンク
・12個のインターナル・サウンドにダイレクト・アクセス

バス / トレブル
・EQ： 高域、低域周波数のカット / ブースト



ディスプレイ – バリュー + / -
・プリセット・リコール

ファンクション
・**トランスポーズ**と組み合わせて使用

トランスポーズ
・他のキーにキーボードをトランスポーズ

ボリューム
・サウンドのレベル

デモソング

デモキーを数秒押したままの状態にすると、デモソングを聞くことができます。デモは自動的に始まり、ディスプレイには**DEM**と表示されます。**バリュー** + / - キーを使って、前後のデモソングにスキップすることができます。

プリセットの呼び出し

P05のように**P**の後に２桁の数字が表示されている場合、**バリュー** + / - キーをつかって任意のプリセットを呼び出すことができます。Numa Concert / Stageには、24のファクトリー・プリセットが用意されております。各プリセットに割り当てられたプログラムチェンジ・ナンバーについては、15ページの「サウンド・セレクション」をご覧ください。

サウンド・エンジン / サウンド・セレクション

サウンド・エンジンは**On / Off**ボタンを使用して有効、無効を決めることができます。音色名のラベルがついた12個のボタンを押していただくと、音色が選択され、選択されたボタンが点灯します。

EQ / ボリューム

Numa Concert / Stageのサウンドが周囲に馴染むよう、アウトプット・セクションにあるバスとトレブルノブを使って低域と高域の周波数をカット、ブーストすることができます。**ボリューム・ノブ**は、音のボリューム・レベルを設定できます。

トランスポーズ

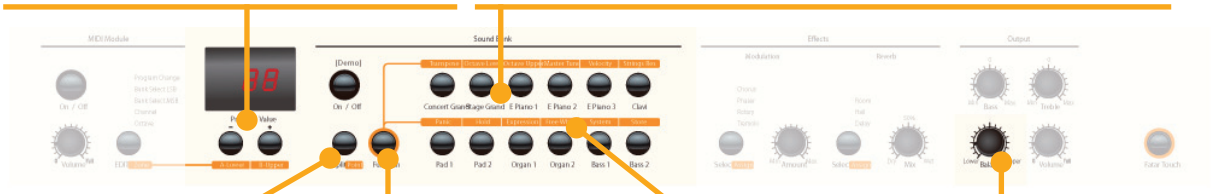
苦手なキーでの演奏が要求されるとき、トランスポーズ機能を利用することによってその負担を減らすことができます。（例：Ｆ＃マイナーから、１セミトーン低いＦマイナーへ。）
１セミトーン分のトランスポーズを行うためには、**ファンクション**と**トランスポーズキー**を押します。**バリュー + / -** をつかって調を変更します。トランスポーズ幅は、**-6**〜**5**セミトーンの間で指定することができ、トランスポーズが行われてない場合には**0**がディスプレイに表示されます。
ファンクション・キーをもう一度押すと、変更したキーが設定され、移調モードを抜け出すことができます。設定された移調セッティングは、Numa Concert / Stageの電源を切るまで有効となります。

ピッチホイール

本体左側に設置したピッチホイールを使って、±2セミトーンの間で自由にピッチを変えることができます。一度ホイールから手が離されると、ホイールは自動的に中央に戻る設計となっており、ピッチ変更が施されていない状態に戻ります。

ディスプレイ – バリュー +/-
（*Value +/-*）
・スプリット・ポイント / オクターブの調整、表示

オクターブ・ロウワー *(Octave Lower)* / アッパー
・レイヤー1/2のオクターブ、またはロウワーとアッパー・スプリット・ゾーン



スプリット（*Split*）– ポイント
・スプリット・モード　オン / オフ
・スプリット・ポイントの定義

ファンクション（*Function*）
・**オクターブ・ロウワー / アッパー**、**ポイント**と組み合わせて使用

サウンド・バンク
・レイヤー・サウンドの選択

バランス（*Balance*）
・レイヤー1/2とスプリット・ゾーンのレベルを調整

レイヤー

キーボード全域において２つの音色を同時に演奏するには、演奏したい音色を同時に押します（例：***Grand Piano & Pad 2***）。

スプリット

２つの音色を異なる音域によってキーボードに割り振ることを、スプリットと呼びます。**スプリット・ボタン**を押すと、この機能が有効となりライトが点灯します。ハイパートのスプリット・ゾーンには、最後に選んだ音色が自動的に使用されます。ハイパートのゾーンの音色を変更したい場合は、選択したい音色ボタンを押してください（例：***Bright Piano***）。
ローパートの音色変更は、**スプリット・キー**と選択したい音色を同時に押します（例： ***Split & Bass 1***）。
スプリット機能を無効にし、88鍵盤全域で同じ音色で演奏したい場合は、**スプリット**・キーを再度押してください。

スプリット ／ レイヤー・レベル

アウトプット・セクションのバランス・ノブを使ってレイヤー（またはスプリット）された音色の相対バランスを調整することができます。

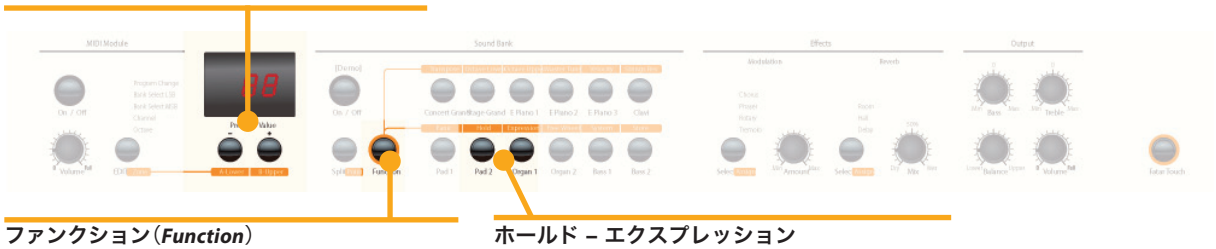
スプリット・ポイント

スプリットするポイントを調整するには、**ファンクションとポイント**を押します。すると、ディスプレイはスプリットされたポイントを表示します。キーボードもしくは**バリュー+ / - キー**を使って低い方のスプリット・ゾーンの境界を選択します。
ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、スプリットポイント・モードから抜けることができます。

オクターブ・ロウワー / オクターブ・アッパー

レイヤーもしくはスプリットされた音色のオクターブ単位の移調を個別に設定することができます。**ファンクション・キーとオクターブ・ロウワー**を押すと、ローパート / レイヤー2の調整を行うことができます。**ファンクション、オクターブ・アッパーキー**を押すと、ハイパート / レイヤー1の調整ができます。**0**とディスプレイに表示されている場合は、オクターブ・トランスポーズが行われてない状態を意味します。
設定できる値は**-3**～**3**で、±3オクターブの調整が可能です。
ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、オクターブ・ロウワー / アッパーモードから抜けることができます。

ディスプレイ – バリュー +/- （*Value +/-*）
・ホールド / エクスプレッションの調整、表示



ファンクション（*Function*）
・**ホールド / エクスプレッション**と組み合わせて使用

ホールド – エクスプレッション
・レイヤーとスプリット・ゾーンにペダル・アサイン

ホールド

ファンクションとホールド・キーを押すと、どのスプリット・ゾーン（またはレイヤーされた音色）に対してサスティン・ペダルを有効にするかを選択することができます。ディスプレイは下記のオプションを表示しますので、**バリュー + / - キー**を使って選択します。

ディスプレイ / オプション	ホールド適用時
U-L (アッパー / ロウワー)	両方のスプリット・ゾーン / レイヤー
U (アッパー)	アッパー・スプリット・ゾーン / レイヤー 1
L (ロウワー)	ロウワー・スプリット・ゾーン / レイヤー 2

ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、ホールド・モードから抜けることができます。

メモ：この機能は、スプリット・モードにおいてローパートでベース、ハイパートでピアノが選択されて、サスティーン効果を無効にしてウォーキング・ベースを弾く場合に非常に便利です。

エクスプレッション

ファンクションとエクスプレッション・キーを押すと、どのスプリットゾーン（またはレイヤーされた音色）に対してエクスプレッション・ペダルを有効にするかを選択することができます。ディスプレイは下記のオプションを表示しますので、**バリュー+ / -キー**を使って選択します。

ディスプレイ / オプション	エクスプレッション適用時
U-L (アッパー / ロウワー)	両方のスプリット・ゾーン / レイヤー
U (アッパー)	アッパー・スプリット・ゾーン / レイヤー 1
L (ロウワー)	ロウワー・スプリット・ゾーン / レイヤー 2

ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、エクスプレッションモードから抜けることができます。

メモ：この機能は、レイヤー・モードでピアノとパッドがレイヤーされている場合、パッドのボリュームのみをコントロールしたい場合などに便利です。

フリー
・モジュレーション・スピード
・ビブラート

ディスプレイ – バリュー + / -
・アサインしたエフェクトの調整、表示

アマウント / ミックス
・モジュレーションの強さ
・リバーブ・ミックス（ドライ / ウェット）

ファンクション
・**アサイン**と組み合わせて使用

セレクト – アサイン
・エフェクト・セレクション
・エフェクト・アサイン

エフェクト

モジュレーションもしくは、リバーブ・エフェクトを選択するには、対応する選択ボタンをタップすることによってアルゴリズムを変更します。選択されたエフェクトのLEDが点灯し、LEDが点灯していない場合は、有効なエフェクトが何も選択されていない状態を意味します。両方のエフェクトは独立しており同時に使用することができます。
エフェクトのかかり具合を調節するには、アマウントもしくはミックス・ノブを使用します。

スプリット / レイヤーへのエフェクト・アサイン

スプリットもしくはレイヤー・モードでは、エフェクトは、片方もしくは両方の音色に対して適用することができます。対応するアサイン・ボタンを押しながら、**ファンクション・キー**を押し続けます。ディスプレイは下記のオプションを表示しますので、**バリュー + / -キー**を使って選択します。

ディスプレイ / オプション	エフェクト適用時
U-L (アッパー / ロウワー)	両方のスプリット・ゾーン / レイヤー
U (アッパー)	アッパー・スプリット・ゾーン / レイヤー 1
L (ロウワー)	ロウワー・スプリット・ゾーン / レイヤー 2

ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、エフェクト・**アサイン**・モードから抜けることができます。

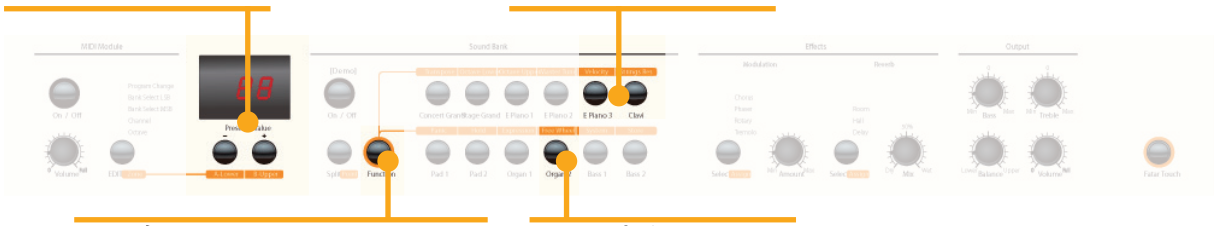
メモ：この機能はスプリット・モードにおいて、ハイパートでロータリー・エフェクトがかかったオルガン、ローパートでロータリー・エフェクト無しのベースを演奏する場合に非常に便利です。両エフェクトは、個別に割り当てを調整でき、選択されたエフェクトのオン / オフを設定することができます。

フリー・ホイール

フリー・ホイールでは、MIDI標準のモジュレーションデータを送るか、内蔵モジュレーション・エフェクトの２番目のパラメータ（モジュレーション・スピード）を制御することができます。フリー・ホイールの設定を行うには、ファンクションとフリー・ホイールボタンを押します。ディスプレイはモジュレーションとエフェクトに関するオプションを表示しますので、**バリュー + / -キー**を使って選択します。フリー・ホイールを使ってモジュレーションのスピードを調整したい場合は、ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、フリー・ホイール・モードから抜けることができます。

ディスプレイ – バリュー +/-
（*Display - Value +/-*）
・値の調整、表示

ベロシティ / ストリングスレゾナンス
(Velocity / Strings res.)
・ベロシティ・カーブの設定



ファンクション
（*Function*）
・ベロシティ、固定ベロシティ、フリー・ホイールと組み合わせて使用,

フリー・ホイール
(Free Wheel)
・フリー・ホイールの機能

ベロシティ

ベロシティは、キーボードのタッチ感度を決定します。
Numa Concert / Stageでは、５種類のベロシティ・カーブが用意されており、この中から選択することができます。ベロシティ・モードに入るには、**ファンクションとベロシティ・キー**を押します。ディスプレイは、**F / L / M / H / Ft**のカーブを表示しますので、**バリュー + / -**を使ってお好みのベロシティを選択してください。なお、それぞれのカーブには次のような特徴がございます。

カーブ	ダイナミックレンジ	特徴
F (固定)	*pp* *ff*	強弱に関わらず、ベロシティが一定の値に固定されます。（例：オルガンなどに最適）
L (低)	*pp* *ff*	弱いタッチで弾いても、比較的大きなサウンドを得られます。（例：騒々しいライブや環境での演奏に向いています）
M (中)	*pp* *ff*	LowとHighの中間の感度を提供します。大きな音を演奏するには、少しだけ強さが必要です。
H (高)	*pp* *ff*	全域にわたるダイナミックレンジにアクセスするので、グランド・ピアノの感覚に近いタッチとなります。非常に繊細な演奏が可能ですが、大きい音で演奏するには、それなりの強さが必要となります。
Ft (Fatarタッチ)	お好みのタッチを設定できます。	次のページをご参照ください。

ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、ベロシティ・モードから抜けることができます。

ストリングスレゾナンス

アコースティック・ピアノでは鍵盤を弾いたときに、すでに押している鍵盤の弦が共鳴します。この**共鳴を再現する機能**です。共鳴音の深さ (共鳴する量) は10 段階に設定することができます。（下記参照）

ストリングスレゾナンスの設定

"Funcation"と"Strings Res."を同時に押すと、現在のレベルが「Off」から「10」の値で表示されます。お好みに合わせて **+/- ボタン**で値を設定してください。（通常のアコースティック・ピアノの場合は 3〜4の値となります）

ディスプレイ – バリュー + / -
（***Display - Value +/-***）
･値の調整、表示

ファンクション
（***Function***）
・ストア***(store)***と組み合わせて使用

ストア
（***Store***）
・プリセットの記憶

Fatar タッチ
（***Fatar Touch***）
• オリジナル・ベロシティ・カーブの作成

Fatarタッチ

Fatarタッチ機能を使うと、演奏スタイルや、外部音源モジュールに合わせたお好みのベロシティ・カーブを作ることができます。
Fatarタッチボタンを押し、鍵盤の演奏を始めます。すると、Numa Concert/Stageはあなたのタッチを習得し始めます。Numa Concert / Stageは、１分間に渡ってあなたの演奏を習得しますが、早々に切り上げたい場合は**Fatar タッチ**を再度押します。ディスプレイに**Y**と**N**が交互に表示されますので、鍵盤を再度演奏して生成されたベロシティ・カーブをチェックします。結果に満足であれば、**バリュー - (Y)**を押します。これで、あなたのFatarタッチカーブが保存され、ベロシティ・カーブ・セッティング（13ページ）で使用可能となりました。保存を取り消すには、**バリュー + (N)**を押してください。

プリセットの保存

調整した設定をプリセットとして保存するには、**ファンクションとストア**を押します。バリュー + / -を使って、P01～P50までの中からプリセットの保存先を選びます。**ファンクション・キー**を再度押すと、**Y**と**N**が交互に表示されるので、**バリュー - (Y)**を押して保存を決行します。また、プリセットには次のパラメータが保存されます。

サウンド	ペダル・アサイン
レイヤー	エフェクト – ミックス / アマウント
スプリット	エフェクト・アサイン
スプリット / レイヤー – バランス	フリー・ホイール
スプリット・ポイント	ベロシティ・カーブ
オクターブ・アッパー / ロウワー	固定ベロシティ・バリュー

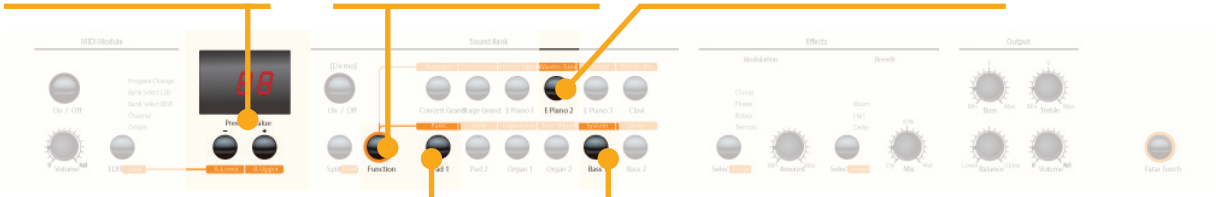
保存を中止するには、**バリュー + (N)**を押してください。

注意：プリセットP01～P24は、ファクトリー・プリセットが保存されていますが、こちらも上書きが可能です。

ディスプレイ – バリュー + / -（*Display - Value +/-*）
・値の調整、表示

ファンクション（*Function*）
・パニック、マスター・チューン、システムと組み合わせて使用

マスター・チューン（*Master Tune*）
・Numa Concert / Stage のチューニングを変更



パニック（*Panic*）
・接続しているすべてのMIDI デバイスの再生を強制的にストップ

システム（*System*）
・ファームウェア・バージョンの表示
・USB経由でのアップデート

ファクトリー・プリセットの復元

P01~P24までのファクトリー・プリセットを復元したい場合は、まずNuma Concert / Stageの電源を切ります。次に**ファンクション、パニック、Store**の３つのキーを押したままの状態で、Numa Concert / Stageの電源を入れます。ディスプレイに**FAC**と表示されるので、３つのボタンから手を離してください。これでファクトリー・プリセットが復元されたはずです。

注意：この機能を使用すると、プリセット番号**P01～P24**にそれまで保存されていた設定は上書きされます。また、Fatarタッチベロシティカーブについても、オリジナルのファクトリー設定に戻されることになります。

パニック

MIDIノートが鳴りっぱなしになるなど、なんらかの予期せぬ出来事が起きた場合、**ファンクションとパニックキー**を押すことで、MIDIコントローラ123（all notes offコマンド）を16全てのMIDIチャンネルに送ることができます。このコマンドでは、接続された全ての音源モジュールとNuma Concert / Stage自体の音を停止することができます。ディスプレイには一時的に**PAN**と表示されます。

マスター・チューン

ファンクションとマスター・チューンを押すと、Numa Concert / Stageとその他の楽器のチューニングを行うことができます。-99～99セント（セミトーンの100分の1）の間で設定できます。値がディスプレイに表示され、バリュー + / -を使って調整可能です。ファンクション・キーを再度押すと、変更した設定が保存され、マスター・チューン・モードから抜けることができます。なお、設定したマスター・チューン設定はNuma Concert / Stageの電源を切るまで有効となります。

注意：Numa Concert / Stageは他のMIDI音源のチューニングを調整して、Numa Concert / Stageのチューニングに適合させることができます！ この機能を利用するには、外部MIDI音源モジュールの必要条件を満たしている必要があります。詳しくは16ページの「マスター・チューン」をご覧ください。

システム

ファンクションとシステム・キーを押すと、Numa Concert / Stageのファームウェア・バージョンを表示します。ファームウェアと音色ライブラリの更新はUSBを介して行います。
Numa Concert / Stageのファームウェアと音色ライブラリの更新を行うには、**システム・キー**を押しながらNuma Concert / Stage本体の電源を入れます。ディスプレイに**SYS**と表示されると、Numa Concert / Stageにデータを転送可能な状態となります。転送に必要なコンピュータソフトウェアは、ウェブサイトwww.studiologic-music.comよりダウンロードすることができます。データ転送が成功したらNuma Concert / Stageの電源を切り、再び電源を入れます。

オン / オフ（*On/Off*）
・MIDI データ送信のオン / オフ

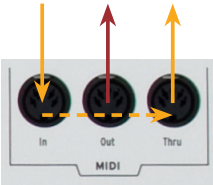
ディスプレイ – バリュー + / -（*Display - Value+/-*）
・MIDIデータの調整、表示

ボリューム（*Volume*）
・MIDI CC 07 の送信

EDIT / Zone
・MIDIデータの調整、表示
・Zoneコンビネーション(A-Lower,B-Upper)のオン / オフ

MIDIコネクション

MIDI (Musical Instruments Digital Interface)は、音源モジュール、シンセサイザー、ドラムマシンや音楽ソフトウェア間の標準のデータ転送規格です。デバイスのMIDI アウトは、他の機器のMIDI Inに接続されます。MIDI インで受け取ったデータは、MIDI スルー端子にコピーされます。



Numa Concert / Stageは、MIDIデータをMIDI アウト端子とUSBポートから送り出します。MIDIデータの受信はMIDI インで行われます。

マスター・キーボード機能

Numa Concert / StageがMIDI アウトとUSB経由でMIDIデータを送るか否かを、MIDIモジュール・セクションで**オン / オフ・ボタン**を使って選択します。
ボリューム・ノブは、MIDIコントローラ7番（MIDIボリューム）に対応しています。マスター・キーボード機能では、プログラムチェンジ、Bank LSB、Bank MSB、チャンネルとオクターブの設定を行えます。それぞれ値はディスプレイに表示され、**バリュー + / -**を使用して調整ができます。

EDIT/Zoneボタンを押すと、"A-Lower" と"B-Upper"がそれぞれ点滅するので、設定するMIDIゾーンを選択します。選択後はプログラムチェンジ、Bank LSB/MSB、チャンネル、オクターブを設定できます。

MIDIチャンネル16 : MIDIチャンネル16では、Numa Concert / Stageで使用するボタン、ノブ、キー全てのMIDIデータを送信します。

MIDIとUSBを使ってコンピュータやその他のMIDI機器からNuma Concert / Stageを演奏したり、Numa Concert / Stageの音色を制御することができます。

サウンド・セレクション

Numa Concert / Stageの内蔵音源は、General MIDI (GM) に準拠したプログラムチェンジ・ナンバーを使って選択することができます。

音色名	プログラムチェンジ・ナンバー	
Grand Piano	0	1
Bright Piano	1	2
E Piano 1	4	5
E Piano 2	2	3
E Piano 3	5	6
Clav	7	8
Pad 1	50	51
Pad 2	48	49
Organ 1	17	18
Organ 2	18	19
Bass 1	32	33
Bass 2	33	34

注意：プログラムチェンジは、1〜128番に割り振られていますが、今回は3番目の段の番号を参照してください。

Numa Concert / Stageでは、MIDI経由で２音色を同時に演奏できます。１つ目の音色はMIDIチャンネル1に、２つ目はチャンネル2に割り振られています。また、両方のチャンネルにおいて12の内蔵音色全てを選ぶことができ、選択モードから独立しています（例：スプリット・モード）。

選択された全ての音色のLEDが点灯します。

エフェクト・コントロール

両エフェクト・プロセッサともに、MIDIコントロール・チェンジを使って制御できます。

パラメータ	MIDI CC	値
リバーブ・ミックス	91	0 - 127
リバーブ・アルゴリズム	80	0 = オフ, 1 = ルーム, 2= ホール, 3 = ディレイ
モジュレーション・アマウント	93	0 - 127
モジュレーション・アルゴリズム	81	0 = オフ, 1 = コーラス, 2 = フェイザー, 3 = ロータリー, 4 = トレモロ
モジュレーション・スピード	13	0 - 127

調整の記録

Numa Concert / Stageは、MIDIチャンネル16全てのパラメータ調整値を送ります。例えば、ロータリー・エフェクトの大胆な変更などをMIDIシーケンサーに記録する場合などに有効です。

マスター・チューン

Numa Concert / Stageは、マスター・チューニング情報をエクスクルーシブ・メッセージとして送信できます。これは、MIDIチャンネルとは無関係の独立したデータです。この機能を利用するには、まずお手持ちのMIDIモジュールの電源を入れてください。
音源モジュールの多数はこのメッセージを理解することができ、メッセージを受け取るとNuma Concert / Stageのチューニングに従って、自動的に音源モジュール自体のチューニングを合わせます。MIDIメッセージを処理できるかどうか、どのような設定をしておく必要があるか等は、お手持ちの音源モジュールのマニュアルをご参照ください。

注意：接続された音源モジュールやシーケンス・ソフトウェアがMIDIシステム・エクスクルーシブ・メッセージを受信、処理できるかどうかを必ずお確かめください。また、この機能は初期設定で無効に設定されているケースもございます。MIDI SysEx機能を有効にする方法につきましては、お手持ちの機器、ソフトウェアのマニュアルをご参照ください。さらに、機器のMIDIチャンネル（「ベーシック・チャンネル」と表記される場合もあります）と、Numa Concert / StageがMIDI SysExデータを送信しているMIDIチャンネルを同一に合わせておく必要があります。

トラブルシューティング

問題	考えられる原因	解決方法
Numa Concert / Stageの電源が入らない。	電源が供給されていない。 Numa Concert / Stage内部のヒューズが飛んだ可能性があります。	電気が利用可能な状態であることを確認し、電源スイッチを入れてください。電源ケーブルと内部ヒューズを確認し、必要であれば交換してください。
Numa Concert / StageからMIDIデータを送信できない。	MIDIモジュールがオフの状態になっている可能性があります。	オン / オフ・キーを押して、MIDIモジュールをonにしてください。.
Numa Concert / StageをMIDI経由で制御できない。	MIDIデータを送っているチャンネルが1もしくは2以外になっている。	MIDIデータを送る場合には、必ずチャンネル1か2で送ってください。
Numa Concert / Stageが常に一定のベロシティ値を演奏 ／ 送信する。	固定ベロシティが設定されている。	違うベロシティ・カーブを選択してください。
音が鳴らない。	サウンド・バンクがオフになっている。ボリュームが0に設定されている。ケーブル / ヘッドフォンの接続が間違っている。サスティン・ペダルがエクスプレッション・ペダル入力に接続されている。	オフ / オフ・ボタンを押してサウンド・バンクをオンにしてください。ボリュームを上げてください。ケーブル / ヘッドフォンを変更してください。エクスプレッション・ペダルに接続されたサスティン・ペダルを外してください。.
スプリットまたは、レイヤー・モードにおいて片方の音しか聞こえない。	バランス・ノブが左右一方に振り切れている。	バランスを変更してください。
オーディオ入力の音が聞こえない。	オーディオ入力のボリューム・レベルが最小に設定されている。外部の音がプレイされていない。ケーブル接続が間違っている。	レベルを調整してください。外部機器がオーディオ信号を発しているかどうか確認してください。接続ケーブルを変更してください。
サスティン・ペダル踏んでいなくても、音が鳴りっぱなしになる。踏むと止まる。	サスティン・ペダルの極性が逆転している。	接点が開いている状態で、サスティン・ペダルを接続してください。
エフェクトの量やエフェクトミックスなどの調整情報がNuma Concert / Stageから送信されない。もしくは、シーケンスソフトに記録されない。	Numa Concert / StageのMIDIチャンネルが16に設定されていない。シーケンサーのMIDI入力がチャンネル16もしくは、「全ての入力」に設定されていない。	MIDIモジュールのMIDIチャンネルを16に設定してください。シーケンサーのMIDI入力をチャンネル16もしくは、「全ての入力」に設定してください。
他のMIDI音源モジュールが、Numa Concert / Stageのチューニング設定に自動追従しない。	音源モジュールがSysExメッセージを無視している。MIDIチャンネルが一致していない。お手持ちの音源モジュールがこの機能に対応していない。	音源モジュール側で、SysExメッセージを受信するように設定してください。Numa Concert / Stageと音源モジュールのMIDIチャンネルを同じに合わせてください。

保証について

すべてのFatar社Studiologicの製品は、細心の注意を払って製造、測定、動作テストを行っています。これにより、２年の保証期間を設けています。サポートを受けるために、お客様のNuma Concert / Stageのご登録をお願いいたします。不適切な運搬、設置、取扱いが原因による故障につきましては、保証の対象外とさせていただきますのでご注意ください。
これらは、伊FATAR社ならびに代理店が定める一般的条件に基づいています。機器の価格を上回る補償は、除外されますのでご了承ください。

CE-Conformity

FATAR srl
Zona Ind.le Squartabue
62019 Recanati MC Italy

FATAR社は、この製品がヨーロッパの基準に従って製造された製品であることを宣言いたします。

FCC-Regulation

・ 73/23/EWG　低電圧指令
・ 89/336/EWG　EMC指令
・ DIN EN 55103-1&2　オーディオ機器の電磁両立性

承認なく機器を改造された場合、この宣言は無効となります。

RoHS-Conformity

この製品は、2002/95/ECの基準に沿って製造されています。

Disposal / WEEE

EG指令2003/108/EGの第一の目的は、電気と電子機器(WEEE)の浪費の防止です。それに加えて再利用、リサイクル、回収により廃棄物の削減を目標としています。環境保全のためにご協力をお願いいたします。

State of the art

最良の品質を保証するために、Fatar社製全てのStudiologic製品は、最新の技術で設計されています。告知なく、アップデート、仕様の変更、改良等を行うことがございます。技術仕様ならびに製品の外観は本マニュアルと異なる場合がございますので、ご了承ください。

Trademarks

本マニュアルの全ての商標はそれぞれの所有者に帰属します。

Copyright

本マニュアルの一部もしくは全部を、著作権利者の許可なく、いかなる形式において複製、転送することを禁止いたします。

カスタマー・サポート

本マニュアルをご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigentカスタマーサポートまでご連絡ください。なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigentへのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

■Dirigentへのご登録方法：
Dirigentサポートページにアクセスし、Studiologicオンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

■Dirigentカスタマーサポート：
電話でお問い合わせの際は、Dirigentへのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、メールでのお問い合わせは、Dirigentサポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

電話番号：03-6264-7818（受付時間：平日10:30〜17:00）
休業日：土日祝日および弊社特別休業日
Dirigentサポートサイト：https://www.dirigent.jp/support/

studiologic®

made to perform

Feb. 20. 2014